

農学府修士課程 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

修士（農学）号授与時に期待される到達目標

農学とそれに関連した食料・生命・資源・環境に関わる自然科学・社会科学について、

- A) 先端的かつ高度な専門的知識と論理的かつ柔軟な思考力を有していること（学力・知識・思考力）
- B) 独創的・革新的な研究を率先して行うための課題探究能力・企画力・実行力を身につけていること（企画力・実践力・発展）
- C) 専門領域における高度な科学的研究手法を身につけていること（技術・分析力・考察力）
- D) 社会的倫理観、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を備えていること（関心・意欲・態度・表現力）

| | 生物生産科学専攻(MP) | 共生持続社会学専攻(MS) | 応用生命化学専攻(ML) | 生物制御科学専攻(MC) | 環境資源物質科学専攻(MR) |
|---|--|---|---|--|--|
| A | 我が国における食料自給率向上とその安定供給および世界の食料生産向上、食料生産と環境保全の調和のための持続的な生物生産技術の開発、動植物の生産機能の解明等に関する高度な専門的知識と論理的かつ柔軟な思考力を有していること。 | 環境共生型の持続可能な社会構築のために、農学諸分野の科学技術にかかわる基礎知識を踏まえて、人文社会科学の総合的視点からのアプローチに基づく教育と研究にかかわる所定の課程を修めていること。 | 生命活動を分子と分子、分子と細胞、ならびに分子と個体との相互関係という視点でとらえ、生命現象と生物機能を理解するための、高度な専門知識と論理的かつ柔軟な思考力を身につけていること。 | 植物・昆虫・微生物・ウイルス等において、生物間の相互作用・環境適応応答・適応機序・遺伝・発生・生理機能の仕組みを、分子レベル・個体・個体群・群集に至る境界・複合領域的な専門知識と論理的、科学的な思考力に基づいて理解していること。 | 植物バイオマス資源・物質の生産、変換利用、再資源化、分解、廃棄、保存など低環境負荷の資源利用システムや、資源の物理化学的・光学的特性解析・および有機化学反応論などの基礎科学に関する高度な専門知識と研究技術を習得していること。 |
| B | 生物生産科学の専門領域において独創性の高い科学を担い、画期的な技術革新を実現し、社会の発展を持続させるためにとるべき施策を提起することを自らの使命と認識していること。 | それぞれの専門領域において独創性の高い研究を行い、持続的な共生社会の発展のために専門的な立場から貢献することを自らの使命と認識していること。 | 応用生命化学の専門領域において独創的・革新的な研究を率先して行うための課題探究能力・企画力・実行力を身につけていること。 | 生物制御科学の専門および関連領域における研究を理解し、目的を明確にして計画を立案でき、独創的な研究を遂行できる企画力と実行力を習得していること。 | 専門領域において独創性の高い科学を担い、画期的な技術革新を実現し、社会の発展を持続させるためにとるべき施策を提起することを自らの使命と認識していること。 |
| C | 生物生産科学の専門領域における高度な科学的研究手法を身につけていること。 | それぞれの専門領域における高度な科学的研究手法を身につけていること。 | 応用生命化学の専門領域における、高度な科学的研究手法を学んでいること。 | 生物機能制御学および生物適応制御学に関する高度で専門的な実験手法を習得し、実験結果を分析・考察して論文をまとめる能力を身につけていること。 | 汎用性の高い高度な研究能力を身につけていること。 |
| D | 生物生産科学の専門あるいは関連する領域の研究者に自らの研究成果をアピールし、相互に理解を深めるためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力をもっていること。研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけていること。 | 研究成果を国内および世界に向けて発信するために必要なレベルの表現能力もしくは語学能力、及び研究者相互に理解を深めるためのコミュニケーション能力を身につけていること。 | 応用生命化学の分野に関する研究を通して、高い倫理性をもって社会の発展に貢献することを自らの使命と認識するとともに、成果を発信するためのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を備えていること。 | 生物制御科学の専門領域に関する演習、研究発表を通じて、研究成果を社会に発信し、最先端科学を牽引するための表現力を習得していること。 | 自らの研究成果を国内外で発表して理解を得るために必要なコミュニケーション能力と語学能力を身につけていること。 |

| | 物質循環環境科学専攻(MK) | 自然環境保全学専攻(MN) | 農業環境工学専攻(MT) | 国際環境農学専攻(MI) |
|---|---|--|--|---|
| A | 21世紀の人類が直面している環境問題の解決に貢献しうる環境化学ないし環境生物学分野の高度な専門知識と研究技術を習得していること。 | 自然環境保全学に必要な自然科学・社会科学や情報処理技術を備え、地球的視点から自然環境を多面的に捉え、持続的な利用と保全を考究する高度な専門知識と論理的かつ柔軟な思考力を有していること。 | 生命現象のメカニズム、生物の生産と利用、地域のレベルから地球規模に至る環境保全、人類の食料問題等に関する高度な専門知識と研究技術を習得していること。 | 環境農学、すなわち農学の伝統を基礎としつつ、食糧問題、環境問題等各種のグローバル・イシューを緩和し解決するべく、環境の修復・保全、環境に負荷を与えない食糧生産体系の確立、さらには地域開発・国際協力の実践を含む、農学・農学関連諸分野の最先端の成果に関する学識・見識を修得していること。 |
| B | 専門領域において独創性の高い科学を担い、環境問題の解決を導く施策を提起することを自らの使命と認識していること。 | 自然環境保全学専攻の専門領域において独創性の高い科学を担い、画期的な技術革新を実現し、社会の発展を持続させるためにとるべき施策を提起することを自らの使命と認識し、その実践のために必要な課題探究能力・企画力・実行力を身につけていること。 | 農学と工学の手法を駆使した独創性の高い科学を担い、画期的な技術革新を実現し、社会の発展を持続させるためにとるべき施策を提起することを自らの使命と認識していること。 | それぞれの専門領域において、環境農学の成果を具体的かつ創造的に適用しうる地域開発リーダー、専門的技術者、さらに一定の国際水準を満たす実践的な教育・研究者として活躍できる素養と教養を兼備していること。 |
| C | 物質循環環境科学における高度な科学的研究手法、研究技術を修得し、実験結果を分析・考察して論文をまとめる能力を身につけていること。 | 自然環境保全学における高度な科学的研究手法、研究技術を身につけていること。 | 農業環境工学分野における高度な科学的研究手法を身につけていること。 | 環境農学において必要な問題解決能力を養い、高度な専門知識と研究能力とを併せ修得していること。 |
| D | 専門あるいは関連する領域の研究者に自らの研究成果をアピールし、相互に理解を深めるためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力、研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけていること。 | 自然環境保全学専攻の専門あるいは関連する領域の研究者に自らの研究成果をアピールし、相互に理解を深めるためのプレゼンテーション能力・語学能力とコミュニケーション能力を持ち、自然環境の持続的な利用と保全に関する諸問題の解決のためのデザイン能力を持っていること。 | 自らの研究成果をアピールし、相互に理解を深めるためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力、研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけていること。 | 諸外国語、特に英語によるコミュニケーション能力を持つこと。 |